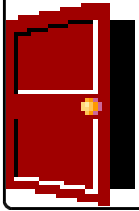


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No. 26

桑村小学校令和5年6月14日 文責 渡邊

今回も、「読み聞かせ」の大切さについて考えます！

はじめに、保護者の方から寄せられた感想を紹介します。

『読書活動の扉を開く』6月1日号を読んでの感想

江川先生が紹介してくださった本の一節、他人事と思えずハッとしました。仕事や家事のことで余裕がなくなると、子どもに「早く早く」と行動を急かしてしまったり、ついガミガミ言ってしまうたりします。そしてあとから自己嫌悪…

多少他のことがおろそかになっても、子どもとの時間を大切にしたいなとあらためて思いました。（1年生保護者より）

感想をお寄せいただきありがとうございました。江川教諭の読書通信は子育てのときに感じる我が子への愛おしさがとてもよく伝わってくるものでした。子供はどんどん成長し、大きくなります。「あの時、こうすればよかった！」と思ってみても、時間は戻りません。保護者の方も言われるように、「子供との時間を大切にする」ことはとても大切なことであると子育てが終わった私も強く感じているところです。

さて、今回も前回と同じ『子どもたちに物語の読み聞かせを』（東京都立多摩図書館編 平成16年）から、「子ども時代の読書は特別」というタイトルの文章を紹介します。



【学校に咲く紫陽花】

子どもたちは何をしても、楽しいときは生き生きとして、心が明るくなります。子ども時代の読書を考えるとき、一番大切なことは、子どもたちが心から楽しむことです。物語の主人公が危険な目にあうと、自分のことのようにドキドキします。ゆかいなできごとで大笑いし、幸せな結末に心から満足します。

読書によって、子どもたちは日常を離れて、空想を広げ、さまざまな感情を経験します。知恵や勇気を使って活躍する小さな主人公に自分を重ねて、生きていく力を得ます。

子ども時代の読書は、大人と全く異なります。子どもたちは、主人公になりきって本の世界を自由に楽しみます。（後略）(P1引用)

子供たちがものごと集中するときは、そのことを楽しいと感じるときです。「本を読みなさい」と大人が強制したとしたら、子供たちは楽しく感じるでしょうか？文字が読めるようになって、一つ一つの言葉を追っていく段階では内容を把握することが難しいように思います。「読み聞かせ」をしてもらうことで、子供たちが楽しめる本の世界は大きく広がっていきます。

どうか寝る前のひととき、お子さんと一緒に読書を楽しみませんか。親にとってもその時間はかけがえのない大切な時間となるように思います。

【お知らせ】

6月22日(木)の午後6時から8時の時間帯で、桑村小学校「学びルーム」と「音楽室」を会場に「親子読書の会」を開催します。どうか、一緒に読書を楽しみましょう！